

「都城」という選択

全国的に少子高齢化による人口減少が進む中、本市でも生産力や消費力の減退、行政サービスの縮小などが懸念されています。地域経済を維持するためには、働く若い人を都城に呼び込み、市の活力の底上げを図ることが必要になります。今回は、若い世代へ本市の持つ潜在的な強みを伝えることで、若年人口を増加させるための取り組みを紹介します。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

約10年間の本市の年代別転入・転出状況を見ると、15歳～24歳の若者の転出超過が顕著なことがわかります。



図1 都城市の年代別社会増減(2006年～2014年9月)



流出する若年層

少子高齢化により、2060年には、65歳以上の人口割合が39・9割となり、総人口は8674万人にまで減少すると予測されている日本。

本市においては、2010年に16万9千人だった人口が、2060年には11万5千人と約5万人減少すると見られ、また65歳以上の老年人口の割合は30・1割になると推計されています。

一方で本市は、国、県と比較して、1人の女性が一生のうちに産む子どもの平均数である合計特殊出生率が高いのが特徴です。それにも関わらず人口が減少する理由の一つが、若年層の流出です。図1からは、15歳〜24歳の若者の大幅な転出超過が見取れます。

これは、大学などへの進学や、就職を目的に転出しているためと考えられます。実際、県内の高校生の県内就職率は、54・8割と、2年連続全国最下位。また、県外進学率は74・3割となっていて、多くの若者が、雇用と就学の間を求めて県外に流出している状況です。

このことから、若年層の流出を止めるためには、地元で学ぶ場と、「働く場」が必要になると考えられます。

県外を目指す理由

平成26年に県教育委員会が高校生に対して実施した調査によると、県外に就職したい理由は「大企業だから」「希望する職種・業種があったから」「給与やボーナスが高いから」などの項目が上位を占めています。

また昨年、宮崎労働局が実施した意識調査の中で、高校3年生の進学希望者に「進学先を卒業した後、県内に戻ってきて働きたいと思う企業があるか」と聞いたところ、「ある」が25・9割、「ない」が50・8割、「そもそもどんな企業があるかわからない」が20・9割でした。



これらの回答に共通しているのが、「地元企業を知らない」ということ。十分な情報がないまま「大企業だから安定している」「自分に合った職種が地元がない」などの考えから、県外の企業を選択していると考えられます。

そこで本市では、より多くの若者に地元へ残ってもらうために、地元の企業を知ってもらう上で、「都城で働く」ことを考えてもらうための取り組みを進めています。

人口減少とその影響、今後の展望



ひろたか 博堂さん
大野 博堂さん
NTT データ経営研究所
パートナー

厚生労働省では、2060年には日本の総人口が8674万人に減少すると予測しています。これは、1945年当時の総人口にほぼ等しい数字です。人口減少がこのペースで進めば、2050年には、現在人が住んでいる居住地域のうち、2割が「無居住化」と推計されています。

超高齢化社会の到来により、生産年齢人口も減少の一途をたどります。社会インフラが整備され、資源も充実している都市部では、若者にとって魅力的な「働く機会」に加え、「学ぶ機会」が提供されています。これが地方における若年層の人口流出を加速させ

る要因になっていきます。今後、地方では企業誘致を図ろうとしても、働き手が見つからない状態にもなりかねず、既に宮崎県内の一部自治体ではこの問題に直面しています。

このことから、自治体による若者を取り巻く環境の整備が欠かせなくなり、その対策次第で、将来の地方の人口動態は大きく左右されることになると考えられます。

都城市においては、市内の企業などを主体とし、「学ぶ機会」と「働く機会」の創出を目的とした施策が検討され始めています。将来を見据えたこれからの都城市の戦略に、一層の期待が高まります。

都城 で 働く

都城で輝く企業たち

肉

と焼酎のふるさと・都城。「農林畜産業のまち」という印象を持つ人が多いのではないのでしょうか。

しかし同時に、本市は工業製造品出荷額が県内1位の産業都市でもあります。

本市には古くから、農産物などを生かした食品や、木材などの素材を生かした製品を製造する企業が多くあります。

創業100年を超える主な企業

創業	会社名	操業期間	主な事業
明治4年	ヤマエ食品工業(株)	145年	総合食品メーカー（しょうゆ・みそなどの醸造）
明治18年	早川しょうゆみそ(株)	131年	しょうゆ・みそなどの醸造
明治33年	江夏商事(株)	116年	畜産物の生産・販売、飼料・肥料の卸・販売
明治35年	柳田酒造(名)	114年	焼酎製造
明治42年	大浦酒造(株)	107年	焼酎製造
大正2年	外山木材(株)	103年	スギの建築材、土木材、製材、チップの製造
大正3年	(株)都城田中家	102年	生・乾燥しいたけ、乾燥きくらげ、発酵発芽玄米の製造
大正5年	霧島酒造(株)	100年	酒類の製造・販売、レストラン事業

(2016年都城商工会議所・6商工会調べ)

合併後、新たに立地した企業の件数 94件



また近年では、南九州の交通の要衝という利点から、市内はもちろん、市外からも多くの企業が立地。古くからある企業に加えて、機械・電子部品などの製造業や、情報サービス関連企業などの多様な業種が進出しています。

これら企業の中には、海外に支社を展開し、世界の企業と取引していたり、特殊な加工技術や特許を生かして、独自の製品を作っていたりする企業もあります。

魅力溢れる企業が たくさんあります！

商工政策課

久保 なおひろ 尚裕 主幹



本市には、系列会社を含め1,700人以上の社員が働く住友ゴム工業(株)や、4年連続焼酎売上高日本一の霧島酒造(株)、本市唯一の上場企業(株)ハンズマンなど、皆さんがよく知る企業の他にも、技術力や創造力を生かした魅力的な企業があります。例えば、金属を切削・研磨する際に出る削りくずなどを自動で過する分離技術の開発で世界トップメーカーの(株)ブンリヤ、溶剤などで剥がれたり、文字が消えたりしない特殊機能ラベルを開発して自動車・医療分野

での用途が拡大している(株)サニー・シーリング、食肉加工の自動省力機器製造で特許を取得し、常に技術開発に挑むマトヤ技研工業(株)などがあります。

最近では、不動産に特化したソフトウェア開発で全国から注目を集める日本情報クリエイイト(株)や、企業従業員の健康管理サービス業務を請負うマーズ(株)が進出するなど、情報サービス関連の企業も多くなりました。他にも幅広い業種で魅力的な企業がたくさんあるので、ぜひ、皆さんに知ってほしいです。

企業を知ってもらった めの取り組み

市では、地元企業を知ってもらうため、学生や保護者、教師が企業を見学する「企業巡見」を実施しています。

地元企業の情報が手に入りにくいという声を受けて、昨年度から実施しているこの取り組み。参加者は、工場を見学したり、その企業に勤めているOBの話聞いたります。

参加した学生からは、「地元こんなすごい企業があるとは知らなかった」「他の企業も調べてみたい」「この企業に就職したい」といった声が寄せられています。

また、18歳の若者が1人で就職先を決定するのは難しいもの。それには、保護者や教師のアドバイスも影響します。

そこで、今年度からは「保護者の就活」として、保護者を対象とした巡見も実施。昨年7月には、都城商業高校の保護者が企業4社を訪問し、担当者の話に、熱心に耳を傾けました。この取り組みは全国ニュースでも取り上げられ、大きな注目を集めています。

職業を選択する際には、情報が重要となります。市では、地元企業の情報を、より広範囲に届けるため、今後もさまざまな高校などを対象に、企業巡見を実施していきます。

1月18日に開催した企業巡見では、(株)九州コガネイの工場を見学。約40人の学生が、企業の説明を聞き、工場内を見学しました。



ひかる
下沖 光さん
(都城高専機械工学科 1年)

ものづくりに興味があり、漠然と就職するなら県外のメーカーを考えていました。今回見学した企業は、海外に支社を持つなど世界展開をしていて、地元こんな企業もあるのかと興味がありました。

地元で就職するのもいいですね。



初めて知った地元企業のよさ



都城商業高校 保護者
村上 美保子さん

子どもの就職に当たって、市内の企業を知りたいと思い参加しました。IT系や製造業、福祉系などを見学。全国各地に支社があり、福利厚生がしっかりしている企業や、日本一の技術を持つ企業、ボーナスが3回もある企業など、それぞれの強みを持った、さまざまな企業があることが分かりました。

保護者の立場から考えると、企業の規模や福利厚生の手厚さなどに目がいきます。都城にも業績が伸びている企業や、大企業の支社などがあるというこ

とも分かり、企業を選ぶに当たって、地元にもたくさんのお選択肢があると思いました。実際に、見学した中で素晴らしい企業があったので、私自身、見学会の翌日にすぐ面接を受け、今ではその企業で働いています。

都城には、知られていないだけで、素晴らしい企業がたくさんあります。実際に見てみないと分からないと思うので、機会があれば、企業巡見に参加してみてください。

都城で暮らす

都城で暮らすということ

都城の良さ

物価が安い

消費者物価地域差指数が本県は96.4で、
全国で一番低い
(総務省小売物価統計調査)

食料自給率が高い

本県は277%と、全国で一番
高い(農林水産省試算)

通勤・通学時間が短い

1日にかかる通勤・通学時間は、
本県は50分で全国で最も短い
(総務省社会生活基本調査)

住み続けたいと思う人が多い

市民の8割以上が、これからも住み続けたい
と回答(市民意識調査)

保育園の待機児童なし

保育園定員充当率は本県が119.39%で、
全国1位
(厚生労働省福祉行政報告例)

医療施設が充実

本市の、人口10万人当たりの病院数は
全国平均より高い86.5所
(厚生労働省医療施設調査)

働くことと合わせて考えるのが、暮らし。「暮らし」には、日々の営みだけでなく人の生き方を含めた広い意味があります。都城と都会の暮らしの違いを考えてみましょう。

まず暮らしを考える上で、気になるのが給料。都道府県別の平均年収では、本県は372万6千円と平均より低くなっています。一方、生活コストを見てみると、消費者物価地域差指数は96・4ポイントと、最も高い横浜市と比べ約9ポイントも低く、物価は安いと言えます。

生活の面を見ると、本県の平均通勤時間は、神奈川県

2分の1となっています。また、本市の合計特殊出生率は1・78と全国平均を大きく上回っています。さらに、救急医療や産期医療などの医療体制も充実している、保育園の待機児童がないため、子どもを生み育てやすい環境と言えるでしょう。

本市は、豊かな自然が身近にあつて、ショッピングモールでの買い物も楽しめる、便利な田舎。そして、人が生きるために必要な水、空気、食べ物全てがおいしいまち、都城です。

充実した暮らしをどう捉えるかは、人それぞれ。生産者を身近に感じる豊かな食生活や、家族や友人と過ごす有意義な時間をもちたいと思う人は、都城での暮らしをシミュレーションしてみたいかがでしょうか。

温かみを感じる地元での暮らし

マトヤ技研工業(株)

竹田 弘毅こうきさん(祝吉)

Uターン者(神奈川県川崎市で約7年生活)



機械設計の仕事をしていて、昨年11月にUターンしました。やりがいのある仕事で楽しかったけれども、狭いのに家賃が高かったり、満員電車が苦痛だったり、同じマンションの住民同士でもあいさつを交わさなかったりなど、これからの自分の生活を考えるうちに、漠然と都城に帰りたと思うようになりました。

東京での就職説明会などに参加しながら、転職活動を開始。母校である都城高専の紹介で再就職を決めました。就職で優先したのが機械設計の仕事に就くこと。これまでよりは収入が下がりましたが、がんばろうと思える会社に出会えました。昼休みに同僚と卓球をするなど、楽しく過ごせています。

帰ってきて改めて感じたのが、温かいコミュニケーション。都会では壁一枚隔てた隣の人すら知りませんが、都城は家が隣りでなくても、近所の人をよく知っていて、いいなと思います。また、会社近くの小学校の子どもが、行き交う人に元気よくあいさつするのは、都会にない風景です。

都城は街と自然が近いのが魅力。これからはバイクをお供に、春は花見、夏は花火、秋は山登り、冬はスケートと、時節を楽しみたいと思います。

都城の魅力 より多くの人に

今

回は、「都城という選択」をテーマに、都城での働き方と暮らし方を見てきました。都会と比べても見劣りしない、たくさんの方の魅力な企業があり、同時に都城ならではの暮らしやすさがあることが分かりました。

「都城の良さをより多くの人に知ってもらいたい」。

この思いから、市では、企業と連携して「雇用の場と生活環境」をセットにしてPRする「就職座談会」を開催しています。

「都城は、働く場が充実していて、人材を確保したいという企業の需要も多かった。市と企業が連携することで、より多くの人を都城に呼び込めると思った」と話すのは、地方創生を担当する杉村史朗主査です。



総合政策課
杉村 史朗 主査

「この座談会は、通常の就職説明会とは異なり、学生と企業の担当者が1対1のディスカッション形式で互いの理解を深められるのが大きなメリット」と語ります。

初めての試みとなった昨年度は、11社が参加。100人を超える新規卒予定者と中途採用希望者が来場しました。参加者からは、「1対1で話を聞けたので、地元企業のことがよく分かった」「福岡で地元企業の話が聞けるとは思わなかった」などの声が寄せられ、実際に5人が就職しました。

「今まで採用がない企業で、採用を始めた企業もあるなど、新たな動きも始まった。市全体での取り組みを地道に行い、都城への人の流れを確実に作りたい」と力を込める杉村主査。

次なる若い力を呼び込むため、官民一体となった取り組みが続きます。



昨年開催された就職座談会の様子



「 都 城 」 と い う 選 択

取材を終えて

都

城には素晴らしい企業がたくさんあります。わが社でなくてもいいから、ぜひ都城で就職してほしい。取材する中で出会ったある企業の経営者が、高校生にかけた言葉です。その言葉からは、自社の技術に対する自負以上に、都城のものづくりに対する誇りを感じました。

また今回、県外での暮らしを経て都城に戻ってきた人たちの話を聞く機会もありました。都城の良いところを尋ねると、皆さん口をそろえるのが、「人の温かさ」。近所の人との距離の近さや何気ないあいさつは、人と人との距離を縮めるといっただけでなく、暮らししていく上での安心感や充実感につながることに気付かされました。

都城を選ぶか、都会を選ぶか。自分がどのように働き、暮らしたいかによって、その選択は変わります。周りの人に流されることなく、情報をたくさん集めた上で比較することが大事です。

都会での暮らしも魅力的ですが、都城での働き方・暮らし方を知った上で、比較して選んでも遅くはないのではないのでしょうか。

「ふるさと都城で働き、暮らす」という選択を考えてみませんか。